



Cisco Unity Connection との Cisco Unified Communications Manager 4.x SCCP 連動の設定

Cisco Unity Connection との Cisco Unified Communications Manager 4.x SCCP 連動設定の詳細については、この章の次の項を参照してください。

- 「連動タスク」 (P.3-1)
- 「要件」 (P.3-3)
- 「集中型ボイス メッセージ」 (P.3-3)
- 「Cisco Unity Connection と連動させるための Cisco Unified CallManager 電話システムのプログラミング」 (P.3-4)
- 「Cisco Unified Communications Manager との新しい連動の作成」 (P.3-15)

このマニュアルは Cisco Unity Connection が Cisco Unified CM とは別のサーバにインストールされている場合だけに適用されます。Cisco Unity Connection が Cisco Unified CM と同じサーバに Cisco Unified Communications Manager Business Edition (CMBE) としてインストールされた構成では、このマニュアルは適用されません。



(注) 分散電話システムでトランク全体に MWI リレーを設定する場合は、Cisco Unified CM のマニュアルを参照し、要件や手順を確認する必要があります。トランク全体に MWI リレーを設定する場合、Cisco Unity Connection を設定する必要はありません。

連動タスク

次のタスク リストでは、連動を作成および変更するためのプロセスを説明します。

SCCP を介した連動を作成するためのタスク リスト

Skinny 呼制御プロトコル (SCCP) を介して Cisco Unity Connection を Cisco Unified CM と連動させるための次のタスクを実行する前に、『*Installation Guide for Cisco Unity Connection*』にあるタスクを実行して、Cisco Unity Connection サーバが連動可能な状態にあることを確認します。

1. システムや機器の要件を確認して、すべての電話システムおよび Cisco Unity Connection サーバが要件を満たしていることを確認します。「要件」 (P.3-3) を参照してください。

2. Cisco Unity Connection によるボイス メッセージ ポートの使用方法を計画します。第 2 章「Cisco Unity Connection によるボイス メッセージ ポートの使用方法の計画」を参照してください。
3. Cisco Unified CM をプログラムします。「Cisco Unity Connection と連動させるための Cisco Unified CallManager 電話システムのプログラミング」(P.3-4) を参照してください。
4. 連動を作成します。「Cisco Unified Communications Manager との新しい連動の作成」(P.3-15) を参照してください。



(注) 追加の Cisco Unified CM クラスタは、新しい電話システム、ポート グループ、およびポートを追加することで追加できます。各 Cisco Unified CM クラスタは個別の電話システム連動です。

5. Cisco Unity Connection が Cisco Unity Connection クラスタ用に設定されている場合は、クラスタ内のすべてのサーバのボイス メッセージ ポートを設定します。第 8 章「Cisco Unity Connection クラスタのボイス メッセージ ポートの設定」を参照してください。
6. 連動をテストします。第 9 章「連動のテスト」を参照してください。
7. この連動が 2 番め以降の連動である場合は、新しい電話システムに適切な新しいユーザ テンプレートを追加します。第 10 章「複数の連動用の新しいユーザ テンプレートの追加」を参照してください。

ボイス メッセージ ポート数を変更するタスク リスト

次のタスク リストを使用して、作成後の連動用のボイス メッセージ ポート数を変更します。

1. Cisco Unified CM の管理 と Cisco Unity Connection Administration のボイス メッセージ ポート数を変更します。第 11 章「ボイス メッセージ ポート数の変更」を参照してください。

Cisco Unified CM クラスタに Cisco Unified CM Express サーバを追加するためのタスク リスト

次のタスク リストを使用して、Cisco Unified CM クラスタに Cisco Unified Communications Manager (CM) Express (旧称 : Cisco Unified CallManager Express) サーバを追加します。

1. Cisco Unified CM Express サーバが Cisco Unity Connection との連動の要件を満たしていることを確認します。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_installation_and_configuration_guides_list.html で、該当する Cisco Unified CM Express インテグレーション ガイドを参照してください。
2. Cisco Unified CM Express サーバを Cisco Unified CM 電話システム連動用のポート グループに追加します。付録 B「Cisco Unified Communications Manager 連動への Cisco Unified Communications Manager Express の追加」を参照してください。
3. 必要に応じて、ボイス メッセージ ポートを追加します。第 11 章「ボイス メッセージ ポート数の変更」を参照してください。

要件

Cisco Unified CM SCCP 連動では、次のコンポーネントの構成がサポートされます。

電話システム (Phone System)

- Cisco Unified CM 4.x。
Cisco Unified CM の互換バージョンの詳細については、『*SCCP Compatibility Matrix: Cisco Unity Connection, Cisco Unified Communications Manager, and Cisco Unified Communications Manager Express*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_device_support_tables_list.html) を参照してください。
- Cisco Unified CM の内線に使用する次の電話機または電話機の組み合わせ
 - Cisco Unified CM の内線に使用する IP Phone だけ
 - Cisco Unified CM サーバにメディア ターミネーション ポイント (MTP) を割り当てていない Cisco Unified CM の内線に使用する IP Phone と SIP 電話機
 - Cisco Unified CM サーバにメディア ターミネーション ポイント MTP を割り当てている Cisco Unified CM の内線に使用する IP Phone と SIP 電話機
- 該当する電話機をネットワークに接続する各場所の LAN 接続。
- Cisco Unified CM クラスタが複数ある場合に、ユーザがトランク アクセス コードまたはプレフィックスをダイヤルすることなく、別の Cisco Unified CM クラスタの内線番号をダイヤルできる機能

Cisco Unity Connection サーバ

- 適切なバージョンの Cisco Unity Connection。Cisco Unity Connection の互換バージョンの詳細については、『*SCCP Compatibility Matrix: Cisco Unity Connection, Cisco Unified Communications Manager, and Cisco Unified Communications Manager Express*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_device_support_tables_list.html) を参照してください。
- インストールされ、連動可能な状態にある Cisco Unity Connection。詳細については、『*Installation Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_installation_guides_list.html) を参照してください。
- 適切な数のボイス メッセージ ポートを有効化するライセンス。

集中型ボイス メッセージ

Cisco Unity Connection は、電話システムを使用した集中型ボイス メッセージをサポートしており、Avaya DCS、Nortel MCDN、Siemens CorNet などの専用プロトコルや、QSIG または DPNSS などの規格ベースのプロトコルなど、さまざまな電話システム間ネットワークング プロトコルをサポートしています。集中型ボイス メッセージは電話システムとそのインターフォン システム ネットワークの機能であり、ボイスメールではないことに注意してください。Unity Connection では、電話システムとそのインターフォン システム ネットワークが正しく設定されている場合に、集中型ボイス メッセージをサポートします。詳細については、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/10x/design/guide/10xcucdgx.html にある『*Design Guide for Cisco Unity Connection*』 Release 10.x の「[Integrating Cisco Unity Connection with the Phone System](#)」の章の「Centralized Voice Messaging」を参照してください。

Cisco Unity Connection と連動させるための Cisco Unified CallManager 電話システムのプログラミング

Cisco Unified CM ソフトウェアをインストールした後、次の手順を指定の順序どおりに実行します。

ボイスメール ポートを含めるためのパーティションおよびコーリング サーチ スペースを追加する

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[ルートプラン (Route Plan)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [パーティション (Partition)] を選択します。
- ステップ 2** [パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ページで、[新規パーティションの追加 (Add a New Partition)] を選択します。
- ステップ 3** [パーティションの設定 (Partition Configuration)] ページに、ボイスメール ポートの電話番号を含めるパーティションの名前と説明を入力します。たとえば、「VMRestrictedPT、ボイスメール ポートの電話番号用パーティション」と入力します。
- ステップ 4** [挿入 (Insert)] を選択します。
- ステップ 5** [新規パーティションの追加 (Add a New Partition)] を選択します。
- ステップ 6** ボイスメール パイロット番号になるハント パイロットを含めるパーティションの名前と説明を入力します。たとえば、「VMPilotNumberPT、ボイスメール パイロット番号用パーティション」と入力します。
- ステップ 7** [挿入 (Insert)] を選択します。
- ステップ 8** [ルートプラン (Route Plan)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] を選択します。
- ステップ 9** [コーリング サーチ スペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ページで、[新規コーリング サーチ スペースの追加 (Add a New Calling Search Space)] を選択します。
- ステップ 10** [コーリング サーチ スペースの設定 (Calling Search Space Configuration)] ページの [名前 (Name)] フィールドに、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 4](#) で作成したパーティションを含めるコーリング サーチ スペースの名前を入力します。たとえば、「VMRestrictedCSS」と入力します。
- ステップ 11** オプションとして、[説明 (Description)] フィールドにコーリング サーチ スペースの説明を入力できます。たとえば、「ボイスメール ポートの電話番号」と入力します。
- ステップ 12** [使用可能なパーティション (Available Partitions)] フィールドで、[ステップ 2](#) から [ステップ 4](#) で作成したパーティションの名前をダブルクリックします。たとえば、「VMRestrictedPT」をダブルクリックします。
- パーティションの名前は [選択されたパーティション (Selected Partitions)] フィールドに表示されません。
- ステップ 13** [挿入 (Insert)] を選択します。
- ステップ 14** [コーリング サーチ スペースの検索と一覧表示に戻る (Back to Find/List Calling Search Spaces)] を選択します。
- ステップ 15** [コーリング サーチ スペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ページで、[検索 (Find)] を選択します。
- ステップ 16** ユーザの電話機で使用するコーリング サーチ スペースの名前を選択します。
- ステップ 17** [コーリング サーチ スペースの設定 (Calling Search Space Configuration)] ページの [使用可能なパーティション (Available Partitions)] フィールドで、[ステップ 5](#) から [ステップ 7](#) で作成したパーティションの名前をダブルクリックします。たとえば、「VMPilotNumberPT」をダブルクリックします。

**注意**

ユーザの電話機で使用するコーリング サーチ スペースに、ハント パイロット（ボイスメール パイロット番号になる）が含まれるパーティションがない場合、この電話から Cisco Unity Connection サーバに電話をかけることはできません。

ユーザの電話機の詳細については、『Cisco Unity Connection でのユーザによる移動、追加、および変更に関するガイド』

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/10x/user_mac/guide/10xcucmac100.html) の「Creating Multiple User Accounts from Cisco Unified Communications Manager Users」の章の「Creating a Cisco Unity Connection Voice Mailbox in Cisco Unified CM の管理」を参照してください。

ステップ 18 [更新 (Update)] を選択します。

ステップ 19 Cisco Unity Connection にアクセスする必要がある残りのコーリング サーチ スペースについても、**ステップ 16** ~ **ステップ 18** を繰り返します。

ボイスメール ポートのデバイス プールを追加する

ステップ 1 Cisco Unified CM の管理で、[システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)] の順に選択します。

ステップ 2 [デバイスプールの検索と一覧表示 (Find and List Device Pools)] ページで、[新しいデバイス プールの追加 (Add a New Device Pool)] を選択します。

ステップ 3 [デバイス プール設定 (Device Pool Configuration)] ページで、次のようにデバイス プール設定を入力します。

表 3-1 [デバイス プール設定 (Device Pool Configuration)] ページの設定

フィールド	設定
デバイス プール名 (Device Pool Name)	「Cisco Unity Connection のボイスメール ポート」と入力するか、このデバイス プールの別の説明を入力します。
Cisco Unified CallManager グループ (Cisco Unified CallManager Group)	このデバイス プールのボイスメール ポートに割り当てる Cisco Unified CallManager グループを選択します。
日時グループ (Date/Time Group)	このデバイス プール内でボイスメール ポートに割り当てる日時グループを選択します。
地域 (Region)	このデバイス プール内でボイスメール ポートに割り当てる Cisco Unified CM のリージョンを選択します。
ソフトキー テンプレート (Softkey Template)	このデバイス プールのボイスメール ポートに割り当てるソフトキー テンプレートをクリックします。
SRST リファレンス (SRST Reference)	必要に応じて、このデバイス プール内でボイスメール ポートに割り当てる Survivable Remote Site Telephony (SRST) 参照先を選択します。

表 3-1 [デバイス プール設定 (Device Pool Configuration)] ページの設定 (続き)

フィールド	設定
ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Source)	[なし (None)] を選択します。
ユーザ保留 MOH 音 源 (User Hold MOH Audio Source)	[なし (None)] を選択します。

ステップ 4 [挿入 (Insert)] を選択します。

次の手順では、Cisco Unity Connection に接続する各ボイスメール ポート用として、Cisco Unified CM にボイスメール ポートを追加します。

Cisco Unified CM ボイスメール ポートを追加する

ステップ 1 Cisco Unified CM の管理で、[機能 (Feature)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [Cisco ボイスメール ポート ウィザード (Cisco Voice Mail Port Wizard)] を選択します。

ステップ 2 [何をしますか (What Would You Like to Do)] ページで、[新規 Cisco ボイスメール サーバの作成とポートの追加 (Create a new Cisco Voice Mail Server and Add Ports to It)] を選択し、[次へ (Next)] を選択します。

ステップ 3 [Cisco ボイスメール サーバ (Cisco Voice Mail Server)] ページにボイスメール サーバの名前が表示されます。ボイスメール サーバには、デフォルトの名前を使用することを推奨します。別の名前を使用する必要がある場合は、9 文字以下の名前にしてください。

ボイスメール サーバ名は、[ポート グループの基本設定 (Port Group Basics)] ページの Cisco Unity Connection の [デバイス名プレフィックス (Device Name Prefix)] フィールドのボイス メッセージ ポートの名前と -VI が名前の最後に付加された形で一致する必要があります。たとえば、Cisco Unified CM [デバイス名プレフィックス (Device Name Prefix)] が CiscoUM の場合、Unity Connection のボイスメール サーバ名は CiscoUM-VI である必要があります。

ステップ 4 [次へ (Next)] を選択します。

ステップ 5 [Cisco ボイスメール ポート (Cisco Voice Mail Ports)] ページで、追加を希望するボイスメール ポートの数を選択し (Cisco Unity Connection のライセンスで許可された数より多い値は指定できない)、[次へ (Next)] を選択します。

Cisco Unity Connection を複数の Cisco Unified CM クラスタと連動する場合、ここで入力する数値は、Cisco Unity Connection と連動するすべての Cisco Unified CM クラスタ上のポート総数が、Cisco Unity Connection ライセンスで有効になるポート数を超えない数にする必要があります。

ステップ 6 [Cisco ボイスメール デバイス情報 (Cisco Voice Mail Device Information)] ページで、次のようにボイスメール デバイス設定を入力します。

表 3-2 [Cisco ボイスメール デバイス情報 (Cisco Voice Mail Device Information)] ページの設定

フィールド	設定
説明 (Description)	「Cisco ボイスメール ポート」と入力するか、ボイスメール デバイスの別の説明を入力します。
デバイス プール (Device Pool)	ボイスメール ポート用に作成したデバイス プールの名前を選択します。たとえば、Cisco Unity Connection のボイスメール ポートを選択します。
コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)	ユーザの電話機および必要なすべてのネットワーク デバイスへの発信を可能にするためのコーリング サーチ スペースの名前を選択します。 このコーリング サーチ スペースには、Cisco Unity Connection がアクセスする (通話中の転送、到着通知メッセージ、MWI のアクティベーションなど) 必要があるすべてのデバイスを包含するパーティションが含まれている必要があります。
ロケーション (Location)	デフォルトの [なし (None)] を受け入れます。

ステップ 7 [次へ (Next)] を選択します。

ステップ 8 [Cisco ボイスメール電話番号 (Cisco Voice Mail Directory Numbers)] ページで、次のようにボイスメール電話番号の設定を入力します。

表 3-3 [Cisco ボイスメール電話番号 (Cisco Voice Mail Directory Numbers)] ページの設定

フィールド	設定
開始電話番号 (Beginning Directory Number)	最初のボイスメール ポートの内線番号を入力します。
パーティション (Partition)	すべてのボイスメール ポート電話番号に対して設定したパーティションの名前を選択します。たとえば、「VMRestrictedPT」を選択します。
コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)	すべてのボイスメール ポート電話番号を含むパーティションを割り当てるように設定したコーリング サーチ スペースの名前を選択します (この設定については、 ステップ 9 の「ボイスメール ポートを含めるためのパーティションおよびコーリング サーチ スペースを追加する」(P.3-4) の手順 を参照してください)。たとえば、「VMRestrictedCSS」を選択します。 このコーリング サーチ スペースはユーザの電話機では使用されないため、ユーザはボイスメール ポートをダイヤルできません。ただし、ユーザはボイスメール パイロット番号をダイヤルできます。
表示 (Display)	デフォルトの [ボイスメール (Voicemail)] をそのまま使用します パイロット番号がダイヤルされると、電話機にこのテキストが表示されます。
AAR グループ (AAR Group)	ボイスメール ポートの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにブロックされるコールをルーティングするために使用するプレフィックス番号を提供します。 [なし (None)] を選択すると、ブロックされたコールの再ルーティングは試行されません。

表 3-3 [Cisco ボイスメール電話番号 (Cisco Voice Mail Directory Numbers)] ページの設定 (続き)

フィールド	設定
外線番号マスク (External Number Mask)	このフィールドは空白のままにするか、外線 (発信) コールの発信者 ID 情報のフォーマットに使用するマスクを指定します。マスクには最大 50 文字を含めることができます。発信者 ID 情報として表示するリテラル文字を入力し、デバイスの電話番号の各桁に X を入力します。
デバイス セキュリティ モード (Device Security Mode)	ボイスメール ポートで使用するセキュリティ モードを選択します。ボイス メッセージ ポートの Cisco Unified CM 認証および暗号化の設定方法の詳細については、付録 A 「Cisco Unity Connection ボイス メッセージ ポートの Cisco Unified Communications Manager 認証および暗号化」を参照してください。

ステップ 9 [次へ (Next)] を選択します。

ステップ 10 [これらの電話番号を回線グループに追加しますか (Do You Want to Add These Directory Numbers to a Line Group)] ページで [いいえ。後から追加します。(No, I Will Add Them Later)] を選択し、[次へ (Next)] を選択します。

ステップ 11 [Cisco ボイスメールポートを追加する準備ができました (Ready to Add Cisco Voice Mail Ports)] ページで、ボイスメール ポートの設定が正しいことを確認し、[終了 (Finish)] を選択します。
設定が適切でない場合は、[戻る (Back)] を選択して正しい設定を入力します。

回線グループに応答ボイスメール ポートを追加する

ステップ 1 [Cisco ボイスメール ポート ウィザードの結果 (Cisco Voice Mail Port Wizard Results)] ページで、[回線グループ (Line Group)] を選択します。

Cisco Unified CM の管理で、[ルートプラン (Route Plan)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [回線グループ (Line Group)] を選択し、回線グループ ページに移動することもできます。

ステップ 2 [回線グループの検索と一覧表示 (Find and List Line Group)] ページで、[新規回線グループの追加 (Add a New Line Group)] を選択します。

この回線グループには、コールに応答するボイスメール ポート用の電話番号が含まれるようになります。この回線グループには、発信専用 (MWI の設定など) にするボイスメール ポートの電話番号を含めることはできません。

Cisco Unity Connection クラスタの場合は、回線グループには、Cisco Unity Connection クラスタ内のすべてのサーバのコールに応答するボイスメール ポートの電話番号が含まれます。この回線グループには、Cisco Unity Connection クラスタのすべてのサーバの発信専用 (MWI の設定など) にするボイスメール ポートの電話番号を含めることはできません。

ステップ 3 [回線グループの設定 (Line Group Configuration)] ページで、次のように設定を入力します。

表 3-4 応答ポート用の [回線グループの設定 (Line Group Configuration)] ページの設定

フィールド	設定
回線グループ名 (Line Group Name)	回線グループの Cisco Unity Connection 応答ポート名か、別の一意の名前を入力します。
RNA 復帰タイムアウト (RNA Reversion Timeout)	デフォルトの 10 を受け入れます。

表 3-4 応答ポート用の [回線グループの設定 (Line Group Configuration)] ページの設定 (続き)

フィールド	設定
分配アルゴリズム (Distribution Algorithm)	(Cisco Unity Connection クラスタが設定されていない場合) [最長アイドル時間 (Longest Idle Time)] を選択します。 (Cisco Unity Connection クラスタが設定されている場合) [上から (Top Down)] を選択します。
無応答 (No Answer)	デフォルトの [次のメンバへ、その後ハント リスト内の次のグループへ (Try Next Member; Then, Try Next Group in Hunt List)] を受け入れます。
ビジー (Busy)	デフォルトの [次のメンバへ、その後ハント リスト内の次のグループへ (Try Next Member; Then, Try Next Group in Hunt List)] を受け入れます。
使用不可 (Not Available)	デフォルトの [次のメンバへ、その後ハント リスト内の次のグループへ (Try Next Member; Then, Try Next Group in Hunt List)] を受け入れます。

ステップ 4 [ルートパーティション (Route Partition)] リストで、すべてのボイスメールポート電話番号に対して設定したパーティションの名前を選択します。たとえば、「VMRestrictedPT」を選択します。

ステップ 5 [検索 (Find)] を選択します。

ステップ 6 [使用可能 DN/ルートパーティション (Available DN/Route Partition)] リストで、コールに回答するボイスメールポートの最初の電話番号を選択し、[回線グループに追加 (Add to Line Group)] を選択します。

**注意**

[選択された DN/ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] リストの電話番号は、値の小さい順に並べる必要があります。このようにしないと、連動が正常に機能しません。

ステップ 7 コールに回答するボイスメールポート用の残りの電話番号についても、**ステップ 6** を繰り返します。

**注意**

発信専用 (MWI の設定など) のボイスメールポートの電話番号は含めないでください。このようにしないと、連動が正常に機能しません。

ステップ 8 [挿入 (Insert)] を選択します。

ハントリストに回線グループを追加する

ステップ 1 Cisco Unified CM の管理 で、[ルートプラン (Route Plan)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ハントリスト (Hunt List)] を選択します。

ステップ 2 [ハントリストの検索と一覧表示 (Find and List Hunt Lists)] ページで、[新規ハントリストの追加 (Add a New Hunt List)] を選択します。

ステップ 3 [ハントリストの設定 (Hunt List Configuration)] ページで、次のようにハントリストの設定を入力します。

表 3-5 応答ポート用の [ハント リストの設定 (Hunt List Configuration)] ページの設定

フィールド	設定
ハント リスト名 (Hunt List Name)	ハント リストの Cisco Unity Connection 応答ポート名か、別の一意の名前を入力します。
説明 (Description)	「 コールに 応答する Cisco Unity Connection ポート」と入力するか、別の説明を入力します。
Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)	[デフォルト (Default)] または使用している Cisco Unified CallManager グループの名前を選択します。

ステップ 4 [挿入 (Insert)] を選択します。

ステップ 5 回線グループをハント リストに追加するためのメッセージが表示された場合は、[OK] を選択します。

ステップ 6 [ハント リストメンバ情報 (Hunt List Member Information)] で [回線グループの追加 (Add Line Group)] を選択します。

ステップ 7 [ハント リスト詳細の設定 (Hunt List Detail Configuration)] ページの [回線グループ (Line Group)] リストでコールに**応答するボイスメール** ポートの電話番号用に作成した回線グループを選択し、[挿入 (Insert)] を選択します。



注意

ハント リストには、Cisco Unity Connection が発信用に使用するボイスメール ポートを持つ回線グループを含めないでください。このようにしないと、連動が正常に機能しません。

ステップ 8 回線グループが挿入されたことが通知された場合、[OK] を選択します。

ステップ 9 [ハント リストの設定 (Hunt List Configuration)] ページで [リセット (Reset)] を選択します。

ステップ 10 ハント リストをリセットすることを確認するためのメッセージが表示された場合、[OK] をクリックします。

ステップ 11 ハント リストがリセットされたことを示すメッセージが表示された場合、[OK] をクリックします。

ハント リストをハント パイロット番号に追加する

ステップ 1 Cisco Unified CM の管理 で、[ルート プラン (Route Plan)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ハント パイロット (Hunt Pilot)] を選択します。

ステップ 2 [ハント パイロットの検索と一覧表示 (Find and List Hunt Pilots)] ページで、[新規ハントパイロットの追加 (Add a New Hunt Pilot)] を選択します。

ステップ 3 [ハント パイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] ページで、次のようにハント パイロットの設定を入力します。

表 3-6 [ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] ページの設定

フィールド	設定
ハントパイロット (Hunt Pilot)	ボイスメールポートのハントパイロット番号を入力します。ハントパイロット番号は、ボイスメールポートの内線番号とは別の番号にする必要があります。 ハントパイロット番号は、ユーザが自分のボイスメッセージを聞くために入力する内線番号です。
パーティション (Partition)	ボイスメールパイロット番号を設定するパーティションの名前を選択します。たとえば、「VMPilotNumberPT」を選択します。
説明 (Description)	「Unity Connection のハントパイロット」と入力するか、別の説明を入力します。
番号計画 (Numbering Plan)	デフォルトの設定を受け入れるか、システム用に設定した番号計画を選択します。
ルートフィルタ (Route Filter)	[なし (None)] を選択するか、システム用に設定したルートフィルタの名前を選択します。
MLPP 優先度 (MLPP Precedence)	デフォルトの設定を受け入れるか、別の設定を選択します。
ハントリスト (Hunt List)	「ハントリストに回線グループを追加する」(P.3-9) の手順で設定した、コール応答用のボイスメールポートのハントリストを選択します。
外部ダイヤルトーンの提供 (Provide Outside Dial Tone)	このチェックボックスをオフにします。

ステップ 4 [挿入 (Insert)] を選択します。

MWI 電話番号を指定する

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理 で、[機能 (Feature)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [メッセージ受信 (Message Waiting)] を選択します。
- ステップ 2** [メッセージ受信番号の検索と一覧表示 (Find and List Message Waiting Numbers)] ページで、[新規メッセージ受信番号の追加 (Add a New Message Waiting Number)] を選択します。
- ステップ 3** MWI をオンにするには、[メッセージ受信の設定 (Message Waiting Configuration)] ページで次の設定を入力します。

表 3-7 MWI をオンにする設定

フィールド	設定
メッセージ受信番号 (Message Waiting Number)	MWI をオンにする一意の内線番号を入力します。
説明 (Description)	「MWI をオンにする電話番号」と入力するか、または他の説明を入力します。
メッセージ受信インジケータ (Message Waiting Indicator)	[オン (On)] を選択します。

表 3-7 MWI をオンにする設定 (続き)

フィールド	設定
パーティション (Partition)	ボイスメールパイロット番号を設定するパーティションの名前を選択します。たとえば、「VMPilotNumberPT」を選択します。
コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)	ユーザの電話機で使用するコーリング サーチ スペースを選択します。

ステップ 4 [挿入 (Insert)] を選択します。

ステップ 5 [新規メッセージ受信番号の追加 (Add a New Message Waiting Number)] を選択します。

ステップ 6 MWI をオフにするには、次の設定を入力します。

表 3-8 MWI をオフにする設定

フィールド	設定
メッセージ受信番号 (Message Waiting Number)	MWI をオフにする一意の内線番号を入力します。
説明 (Description)	「MWI をオフにする電話番号」と入力するか、または他の説明を入力します。
メッセージ受信インジケータ (Message Waiting Indicator)	[オフ (Off)] を選択します。
パーティション (Partition)	ボイスメールパイロット番号を設定するパーティションの名前を選択します。たとえば、「VMPilotNumberPT」を選択します。
コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)	ユーザの電話機で使用するコーリング サーチ スペースを選択します。

ステップ 7 [挿入 (Insert)] を選択します。

次の手順では、ボイスメールパイロット番号を追加します。この番号は、ユーザのボイスメッセージを聞くためにダイヤルする内線番号です。メッセージ ボタンを押すと、Cisco IP Phone が自動的にボイスメールパイロット番号にダイヤルします。

ボイスメール ポート用のボイスメールパイロット番号を追加する

ステップ 1 Cisco Unified CM の管理 で、[機能 (Feature)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [ボイスメールパイロット (Voice Mail Pilot)] を選択します。

ステップ 2 [ボイスメールパイロットの検索と一覧表示 (Find and List Voice Mail Pilots)] ページで、[新規ボイスメールパイロットの追加 (Add a New Voice Mail Pilot)] を選択します。

ステップ 3 [ボイスメールパイロットの設定 (Voice Mail Pilot Configuration)] ページで、次のようにボイスメールパイロット番号の設定を入力します。

表 3-9 【ボイスメール パイロットの設定 (Voice Mail Pilot Configuration)】 ページの設定

フィールド	設定
ボイスメール パイロット 番号 (Voice Mail Pilot Number)	ユーザが自分のボイス メッセージを聞くためにダイヤルするボイスメール パイロット番号を入力します。この番号は、ボイスメール ポートを追加するときに入力したハント パイロット番号と同一の番号にする必要があります。
説明 (Description)	「Cisco Unity Connection のパイロット」と入力するか、別の説明を入力します。
コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)	ボイスメール パイロット番号に設定したユーザの電話機とパーティションを包含するパーティションが含まれているコーリング サーチ スペースを選択します。
システムのデフォルト ボイスメール パイロットに 設定 (Make This the Default Voice Mail Pilot for the System)	このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、現在のデフォルトのパイロット番号がこのボイスメール パイロット番号に置き換えられます。

ステップ 4 [挿入 (Insert)] を選択します。

ボイスメール パイロットを設定する

ステップ 1 Cisco Unified CM の管理 で、[機能 (Feature)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [ボイスメール プロファイル (Voice Mail Profile)] を選択します。

ステップ 2 [ボイスメール プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Voice Mail Profiles)] ページで、[新規ボイスメール プロファイルの追加 (Add a New Voice Mail Profile)] を選択します。

ステップ 3 [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ページで、次のようにボイスメール プロファイルの設定を入力します。

表 3-10 【ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)】 ページの設定

フィールド	設定
ボイスメール プロファイル名 (Voice Mail Profile Name)	ボイスメール プロファイルの識別名を入力します。
説明 (Description)	「Cisco Unity Connection のプロファイル」と入力するか、別の説明を入力します。
ボイスメール パイロット (Voice Mail Pilot)	次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [ボイスメール パイロットの設定 (Voice Mail Pilot Configuration)] ページで定義した該当するボイスメール パイロット番号 デフォルトを使用 (Use Default)

表 3-10 [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ページの設定 (続き)

フィールド	設定
ボイスメール ボックス マスク (Voice Mail Box Mask)	Cisco Unified CM でマルチテナント サービスを有効にしていない場合は、このフィールドを空白のままにします。 マルチテナント サービスを有効にしている場合、各テナントは自身のボイスメール プロファイルを使用し、他のテナントと共有するパーティションごとに内線番号 (電話番号) を識別するためのマスクを作成する必要があります。たとえば、あるテナントは 972813XXXX というマスクを使用し、別のテナントは 214333XXXX というマスクを使用することができます。また、それぞれのテナントは MWI 用に独自のトランスレーション パターンを使用します。
これをシステムのデフォルト ボイスメール プロファイルに設定 (Make This the Default Voice Mail Profile for the System)	このボイスメール プロファイルをデフォルトにするにはこのチェックボックスをオンにします。 このチェックボックスをオンにすると、現在のデフォルトのボイスメール プロファイルが、このボイスメール プロファイルに置き換えられます。

ステップ 4 [挿入 (Insert)] を選択します。

ボイスメール サーバのサービス パラメータを設定する

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[サービス (Service)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] を選択します。
- ステップ 2** [サービス パラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ページの [サーバ (Server)] フィールドで Cisco Unified CM サーバの名前を選択します。
- ステップ 3** [サービス (Service)] リストで [Cisco CallManager (Cisco CallManager)] を選択します。パラメータのリストが表示されます。
- ステップ 4** Clusterwide パラメータ ([機能 (Feature)] - [一般 (General)]) で、Multiple Tenant MWI Modes パラメータを検索します。
- ステップ 5** 複数テナントの MWI 通知を使用する場合は [True (True)] を選択します。

このパラメータを [True] に設定した場合、Cisco Unified CM は、MWI のオンとオフを切り替えるときに、任意の設定済みトランスレーションパターンを使用して、ボイスメール内線番号を電話番号に変換します。
- ステップ 6** いずれかの設定を変更した場合は、[保存 (Save)] を選択します。これに該当しない場合は、この手順の残りのステップに進みます。
- ステップ 7** [ナビゲーション (Navigation)] ドロップダウン ボックスで、[Cisco Unified Serviceability] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 8** Cisco Unified Serviceability の [Tools] メニューで、[Control Center - Feature Services] を選択します。
- ステップ 9** [CM Services] で [Cisco CallManager] を選択して、[Restart] を選択します。

Cisco Unified Communications Manager との新しい連動の作成

Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unity Connection が連動可能な状態にあることを確認したら、次の手順を実行して、連動を設定し、ポート設定を入力します。

連動を作成する

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration にログインします。
- ステップ 2** Cisco Unity Connection Administration で [テレフォニー統合 (Telephony Integrations)] を展開してから、[電話システム (Phone System)] を選択します。
- ステップ 3** [電話システムの検索 (Search Phone Systems)] ページの [表示名 (Display Name)] で、デフォルトの電話システムの名前を選択します。
- ステップ 4** [電話システムの基本設定 (Phone System Basics)] ページの [電話システムの名前 (Phone System Name)] フィールドで、電話システムの説明的な名前を入力します。
- ステップ 5** (ボイスメール ボックスの無い管理者やユーザが Cisco Unity Connection の Web アプリケーションで電話から録音および再生を行うときに) TRaP 接続にこの電話システムをデフォルトとして使用する場合は、[デフォルト TRAP スイッチ (Default TRAP Switch)] チェックボックスをオンにします。TRaP 接続に別の電話システムをデフォルトとして使用する場合は、このチェックボックスをオフにします。
- ステップ 6** [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 7** [電話システムの基本設定 (Phone System Basics)] ページの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン ボックスで、[ポート グループの追加 (Add Port Group)] を選択して、[移動 (Go)] を選択します。
- ステップ 8** [ポート グループの新規作成 (New Port Group)] ページで、次の設定を入力して [保存 (Save)] を選択します。

表 3-11 [ポート グループの新規作成 (New Port Group)] ページの設定

フィールド	設定
電話システム (Phone System)	ステップ 4 で入力した電話システムの名前を選択します。
作成元 (Create From)	[ポート グループ テンプレート (Port Group Template)] を選択して、ドロップダウン ボックスで [SCCP] を選択します。
表示名 (Display Name)	ポート グループの説明的な名前を入力します。デフォルト名をそのまま使用することも、任意の名前を入力することもできます。
デバイス名プレフィックス (Device Name Prefix)	Cisco Unified CM がボイス ポートのデバイス名に追加するプレフィックスを入力します。このプレフィックスは、Cisco Unified CM で使用するプレフィックスと一致する必要があります。
MWI オンの内線番号 (MWI On Extension)	MWI をオンにするために Cisco Unified CM の管理で指定した内線番号を入力します。
MWI オフの内線番号 (MWI Off Extension)	MWI をオフにするために Cisco Unified CM の管理で指定した内線番号を入力します。

表 3-11 [ポートグループの新規作成 (New Port Group)] ページの設定 (続き)

フィールド	設定
IPv4 アドレスまたはホスト名 (IPv4 Address or Host Name) (Unity Connection 10.0)	<p>Cisco Unity Connection と連動させるプライマリ Cisco Unified CM サーバの IPv4 アドレス (またはホスト名) を入力します。</p> <p>このフィールドに IP アドレスまたはホスト名を入力するか、[IPv6 アドレス/ホスト名 (IPv6 Address or Host Name)] フィールドに IP アドレスまたはホスト名を入力する必要があります (また、該当する場合は、両方のフィールドに情報を入力します)。両方のフィールドを空白のままにすることはできません。</p> <p>Cisco Unified CM 認証および暗号化を使用する場合は、このフィールドに IP アドレスまたはホスト名を入力します。Unity Connection と Cisco Unified CM の間の暗号化に使用する CTL ファイルには、IPv6 アドレッシングを使用している場合でも、IPv4 アドレスまたはホスト名が必要です。</p>
IPv6 アドレスまたはホスト名 (IPv6 Address or Host Name) (Unity Connection 10.0)	<p>Cisco Unity Connection と連動させるプライマリ Cisco Unified CM サーバの IPv6 アドレス (またはホスト名) を入力します。</p> <p>このフィールドに IP アドレスまたはホスト名を入力するか、[IPv4 アドレス/ホスト名 (IPv4 Address or Host Name)] フィールドに IP アドレスまたはホスト名を入力する必要があります (また、該当する場合は、両方のフィールドに情報を入力します)。両方のフィールドを空白のままにすることはできません。</p> <p>(注) IPv6 は、Cisco Unified CM 7.1(2) 以降でサポートされています。</p>
IP アドレスまたはホスト名 (IP Address or Host Name) (Unity Connection 10.0)	<p>Cisco Unity Connection と連動させるプライマリ Cisco Unified CM サーバの IP アドレス (またはホスト名) を入力します。</p>
ポート (Port)	<p>Cisco Unity Connection と連動している Cisco Unified CM サーバの TCP ポートを入力します。デフォルト設定を使用することを推奨します。</p>
TLS ポート (TLS Port)	<p>Cisco Unity Connection と連動している Cisco Unified CM サーバの TLS ポートを入力します。デフォルト設定を使用することを推奨します。</p>

ステップ 9 [ポートグループの基本設定 (Port Group Basics)] ページの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン ボックスで、[ポートの追加 (Add Ports)] を選択して、[移動 (Go)] を選択します。

ステップ 10 [ポートの新規作成 (New Port)] ページで次の設定を入力して、[保存 (Save)] を選択します。

表 3-12 [ポートの新規作成 (New Port)] ページの設定

フィールド	設定
有効 (Enabled)	<p>このチェックボックスをオンにします。</p>
ポート数 (Number of Ports)	<p>このポートグループ内に作成するボイスメッセージポートの数を入力します。</p> <p>(注) Cisco Unity Connection クラスタの場合は、すべての Cisco Unity Connection サーバで使用されるボイスメッセージポート数の合計を入力する必要があります。各ポートは後で特定の Cisco Unity Connection サーバに割り当てられます。</p>
電話システム (Phone System)	<p>ステップ 4 で入力した電話システムの名前を選択します。</p>

表 3-12 [ポートの新規作成 (New Port)] ページの設定 (続き)

フィールド	設定
ポート グループ (Port Group)	ステップ 8 で追加したポート グループの名前を選択します。
サーバ (Server)	Cisco Unity Connection サーバの名前を選択します。
セキュリティ モード (Security Mode)	ボイス メッセージ ポートで使用する Cisco Unified CM セキュリティ モードを選択します。

ステップ 11 [ポートの検索 (Search Ports)] ページで、この電話システム連動に対して作成した最初のボイス メッセージ ポートの表示名を選択します。




(注) デフォルトでは、ボイス メッセージ ポートの表示名は、ポート グループの表示名の後に増分番号が付加されたものになります。

ステップ 12 [ポートの基本設定 (Port Basics)] ページで、必要に応じて、ボイス メッセージ ポートの設定を入力します。次の表のフィールドは、変更可能なものを示しています。

表 3-13 ボイス メッセージ ポートの設定

フィールド	説明
有効 (Enabled)	ポートを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。ポートは通常の動作中に有効になります。 ポートを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。ポートが無効になっている場合にポートを呼び出すと、呼び出し音は鳴りますが、応答はありません。通常、ポートは、テスト中インストーラによってだけ無効になります。
サーバ (Server)	(Cisco Unity Connection クラスタの場合に限る) このポートを処理する Cisco Unity Connection サーバの名前を選択します。詳細については、第 8 章「Cisco Unity Connection クラスタのボイス メッセージ ポートの設定」を参照してください。
コールに応答する (Answer Calls)	ポートを通話への応答用に指定するには、このチェックボックスをオンにします。これらの通話は、識別できない発信者またはユーザからの着信です。
メッセージ通知を実行する (Perform Message Notification)	ポートをユーザに対するメッセージ通知用に指定するには、このチェックボックスをオンにします。稼働率が最も低いポートに [メッセージ通知を実行する (Perform Message Notification)] を割り当てます。
MWI 要求を送信する (Send MWI Requests)	ポートでの MWI のオン/オフを指定するには、このチェックボックスをオンにします。稼働率が最も低いポートに [MWI 要求を送信する (Send MWI Requests)] を割り当てます。
TRAP 接続を許可する (Allow TRAP Connections)	このチェックボックスをオンにすると、ユーザは Cisco Unity Connection の Web アプリケーションで電話から録音または再生用のポートを使用できます。稼働率が最も低いポートに [TRAP 接続を許可する (Allow TRAP Connections)] を割り当てます。

表 3-13 ボイス メッセージ ポートの設定 (続き)

フィールド	説明
発信ハント順 (Outgoing Hunt Order)	Cisco Unity Connection が発信時に使用するポート ([メッセージ通知を実行する (Perform Message Notification)]、[MWI 要求を送信する (Send MWI Requests)]、および [TRAP 接続を許可する (Allow TRAP Connections)] の各チェックボックスをオンにした場合など) の優先順位を入力します。値の最も大きいポートが最初に使用されます。ただし、複数のポートが同じ [発信ハント順 (Outgoing Hunt Order)] 値になっている場合、Cisco Unity Connection は最も長時間アイドル状態になっているポートを使用します。
セキュリティ モード (Security Mode)	<p>該当するセキュリティ モードを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [非セキュア (Non-secure)] : コールシグナリング メッセージがクリア (暗号化されていない) テキストとして送信され、認証された TLS ポートではなく非認証ポートを使用して Cisco Unified CM に接続されるため、コールシグナリング メッセージの完全性とプライバシーは保証されません。また、メディア ストリームも暗号化されません。 • [認証 (Authenticated)] : コールシグナリング メッセージは認証された TLS ポートを使用して Cisco Unified CM に接続されるため、完全性が保証されます。ただし、クリア (暗号化されていない) テキストで送信されるため、コールシグナリング メッセージのプライバシーは保証されません。また、メディア ストリームも暗号化されません。 • [暗号化 (Encrypted)] : コールシグナリング メッセージは認証された TLS ポートを使用して Cisco Unified CM に接続され、暗号化されるため、このポートでの完全性とプライバシーが保証されます。また、メディア ストリームも暗号化されます。
	<p> 注意 Cisco Unity Connection ボイス メッセージ ポートの [セキュリティモード (Security Mode)] 設定は、Cisco Unified CM ポートのセキュリティ モードの設定と一致している必要があります。一致しないと、Cisco Unified CM での認証および暗号化が失敗します。</p> <p>Cisco Unified CM 認証がすぐに機能するためには、Cisco Unity Connection システム クロックと Cisco Unified CM システム クロックが同期している必要があります。同期化していない場合、Cisco Unified CM システム クロックが Cisco Unity Connection デバイス証明書のタイム スタンプの時刻を経過するまで、Cisco Unified CM は Cisco Unity Connection ボイス メッセージ ポートを許可しません。</p>
	<p>(注) Cisco Unified CM および Cisco Unity Connection での認証および暗号化に関する要件とその他の情報については、付録 A 「Cisco Unity Connection ボイス メッセージ ポートの Cisco Unified Communications Manager 認証および暗号化」 を参照してください。</p>

ステップ 13 [保存 (Save)] を選択します。

ステップ 14 [次へ (Next)] を選択します。

ステップ 15 電話システムの残りすべてのボイス メッセージ ポートについて、[ステップ 12](#) ~ [ステップ 14](#) を繰り返します。

- ステップ 16** Cisco Unity Connection が AXL サーバに接続していない場合は、[ステップ 29](#)に進みます。そうでない場合は、[テレフォニー統合 (Telephony Integrations)] を展開し、[電話システム (Phone System)] を選択します。
- ステップ 17** [電話システムの検索 (Search Phone Systems)] ページで、[ステップ 4](#) で作成した電話システムの表示名を選択します。
- ステップ 18** [電話システムの基本設定 (Phone System Basics)] ページの [編集 (Edit)] メニューで、[Cisco Unified Communications Manager AXL サーバ (Cisco Unified Communications Manager AXL Servers)] を選択します。

Cisco Unified CM ユーザをインポートするため、および Cisco Unity Connection のパーソナル着信転送ルールのユーザ用の特定の電話の設定を変更するために、Cisco Unity Connection が Cisco Unified CM データベースにアクセスしなければならないときに AXL サーバへの接続が必要になります。



注意

Cisco Unified CM ユーザをインポートする場合は、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ページの [プライマリ内線 (Primary Extension)] フィールドが各ユーザで入力されていることを確認します。そうでない場合は、インポート用に選択するユーザを検索が見つめることができません。

- ステップ 19** [AXL サーバの編集 (Edit AXL Servers)] ページの [AXL Servers (AXL サーバ)] で、[新規追加 (Add New)] を選択します。
- ステップ 20** AXL サーバについて次の設定を入力し、[保存 (Save)] を選択します。

表 3-14 AXL サーバの設定

フィールド	設定
順序 (Order)	AXL サーバの優先順位を入力します。最も小さい数字はプライマリ AXL サーバで、それよりも大きい数字はセカンダリ サーバを表します。
IP アドレス (IP Address)	AXL サーバの IP アドレスを入力します。
ポート (Port)	Cisco Unity Connection が接続する AXL ポートを入力します。この設定は、AXL サーバが使用するポートと同じにする必要があります。

- ステップ 21** 残りのすべての AXL サーバに対して[ステップ 19](#) および[ステップ 20](#) を繰り返します。
- ステップ 22** [AXL サーバの設定 (AXL Server Settings)] で、次の設定を入力して [保存 (Save)] を選択します。

表 3-15 AXL サーバの設定

フィールド	設定
ユーザ名 (Username)	Cisco Unity Connection が AXL サーバへのサインインで使用するユーザ名を入力します。 (注) このユーザは、「Standard AXL API Access」の役割に割り当てられている Cisco Unified CM アプリケーションのユーザ名と一致する必要があります。
パスワード (Password)	Cisco Unity Connection が、AXL サーバへのサインインで使用するユーザのパスワードを入力します。 (注) このパスワードは、[ユーザ名 (User Name)] フィールドに入力した Cisco Unified CM アプリケーション ユーザのパスワードと一致する必要があります。
[Cisco Unified Communications Manager のバージョン (Cisco Unified Communications Manager Version)]	

- ステップ 23** 該当するアプリケーション サーバを Cisco Unified CM へ追加するには、Cisco Unified CM の管理へサインインします。
- ステップ 24** Cisco Unified CM の管理 で、[システム (System)] > [アプリケーション サーバ (Application Server)] ページに移動します。
- ステップ 25** [アプリケーション サーバの検索と一覧表示 (Find and List Application Servers)] ページで、[検索 (Find)] を選択してすべてのアプリケーション サーバを表示します。
- ステップ 26** [名前 (Name)] 列で、Cisco Unity Connection サーバの名前を選択します。
- ステップ 27** [アプリケーション サーバの設定 (Application Server Configuration)] ページの [使用可能なアプリケーション ユーザ (Available Application User)] フィールドで、[ステップ 22](#) で使用した Cisco Unified CM アプリケーション ユーザを選択し、**下向き矢印**を選択して [選択されたアプリケーション ユーザ (Selected Application User)] に移動します。
- ステップ 28** [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 29** Cisco Unity Connection Administration で [テレフォニー統合 (Telephony Integrations)] を展開し、[ポート グループ (Port Group)] を選択します。
- ステップ 30** [ポートグループの検索 (Search Port Groups)] ページで、[ステップ 8](#) の電話システム連動で作成したポート グループの表示名を選択します。



(注) デフォルトでは、ポート グループの表示名は、電話システムの表示名の後に増分番号が付加されたものになります。

- ステップ 31** [ポートグループの基本設定 (Port Group Basics)] ページの [編集 (Edit)] メニューで、[サーバ (Servers)] を選択します。
- ステップ 32** [サーバの編集 (Edit Servers)] ページで、Cisco Unified CM クラスタにセカンダリ サーバが存在する場合、次のサブステップを実行します。そうでない場合は、[ステップ 33](#) に進みます。
- a. [Cisco Unified Communications Manager サーバ (Cisco Unified Communications Manager Servers)] の下で、[追加 (Add)] を選択します。

- b. セカンダリ Cisco Unified CM サーバについて次の設定を入力し、[保存 (Save)] を選択します。

表 3-16 Cisco Unified Communications Manager サーバの設定

フィールド	設定
順序 (Order)	Cisco Unified CM サーバの優先順位を入力します。数値の最も小さいサーバがプライマリ Cisco Unified CM サーバで、数値がプライマリよりも大きい場合はセカンダリ サーバです。
IPv4 アドレスまたはホスト名 (IPv4 Address or Host Name) (Unity Connection 10.0)	セカンダリ Cisco Unified CM サーバの IPv4 アドレス (またはホスト名) を入力します。 このフィールドに IP アドレスまたはホスト名を入力するか、[IPv6 アドレス/ホスト名 (IPv6 Address or Host Name)] フィールドに IP アドレスまたはホスト名を入力する必要があります (また、該当する場合は、両方のフィールドに情報を入力します)。両方のフィールドを空白のままにすることはできません。
IPv6 アドレスまたはホスト名 (IPv6 Address or Host Name) (Unity Connection 10.0)	セカンダリ Cisco Unified CM サーバの IPv6 アドレス (またはホスト名) を入力します。 このフィールドに IP アドレスまたはホスト名を入力するか、[IPv4 アドレス/ホスト名 (IPv4 Address or Host Name)] フィールドに IP アドレスまたはホスト名を入力する必要があります (また、該当する場合は、両方のフィールドに情報を入力します)。両方のフィールドを空白のままにすることはできません。 (注) IPv6 は、Cisco Unified CM 7.1(2) 以降でサポートされています。
IP アドレスまたはホスト名 (IP Address or Host Name) (Unity Connection 10.0)	セカンダリ Cisco Unified CM サーバの IP アドレス (またはホスト名) を入力します。
ポート (Port)	Cisco Unity Connection と連動させる Cisco Unified CM サーバの TCP ポートを入力します。デフォルト設定を使用することを推奨します。
TLS ポート (TLS Port)	Cisco Unity Connection と連動させる Cisco Unified CM サーバの TLS ポートを入力します。デフォルト設定を使用することを推奨します。
サーバタイプ (Server Type)	[Cisco Unified Communications Manager] を選択します。

- c. クラスタの残りのすべての Cisco Unified CM サーバに対して、[ステップ 32a](#) および [ステップ 32b](#) を繰り返します。

ステップ 33 Cisco Unified CM クラスタがボイス メッセージ ポートの認証または暗号化を使用する場合、次のサブステップを実行します。

- a. [TFTP サーバ (TFTP Servers)] で [追加 (Add)] を選択します。
b. TFTP サーバについて次の設定を入力し、[保存 (Save)] を選択します。

表 3-17 TFTP サーバの設定

フィールド	設定
順序 (Order)	TFTP サーバの優先順位を入力します。数値の最も小さいサーバがプライマリ TFTP サーバで、数値がプライマリよりも大きい場合はセカンダリ サーバです。
IPv4 アドレス/ホスト名 (IPv4 Address or Host Name) (Unity Connection)	TFTP サーバの IPv4 アドレス (またはホスト名) を入力します。 このフィールドに IP アドレスまたはホスト名を入力するか、[IPv6 アドレス/ホスト名 (IPv6 Address or Host Name)] フィールドに IP アドレスまたはホスト名を入力する必要があります (また、該当する場合は、両方のフィールドに情報を入力します)。両方のフィールドを空白のままにすることはできません。
IPv6 アドレスまたはホスト名 (IPv6 Address or Host Name) (Unity Connection 10.0)	TFTP サーバの IPv6 アドレス (またはホスト名) を入力します。 このフィールドに IP アドレスまたはホスト名を入力するか、[IPv4 アドレス/ホスト名 (IPv4 Address or Host Name)] フィールドに IP アドレスまたはホスト名を入力する必要があります (また、該当する場合は、両方のフィールドに情報を入力します)。両方のフィールドを空白のままにすることはできません。 (注) IPv6 は、Cisco Unified CM 7.1(2) 以降でサポートされています。
IP アドレスまたはホスト名 (IP Address or Host Name) (Unity Connection 10.0)	TFTP サーバの IP アドレス (またはホスト名) を入力します。

c. Cisco Unified CM クラスタの残りのすべての TFTP サーバに対して、[ステップ 33a](#) および [ステップ 33b](#) を繰り返します。

ステップ 34 別の電話システム連動が存在する場合は、Cisco Unity Connection Administration で [テレフォニー統合 (Telephony Integrations)] を展開し、[トランク (Trunk)] を選択します。そうでない場合は、[ステップ 38](#) に進みます。

ステップ 35 [電話システムのトランクの検索 (Search Phone System Trunks)] ページで、[電話システムのトランク (Phone System Trunk)] メニューの [電話システム トランクの新規作成 (New Phone System Trunk)] を選択します。

ステップ 36 [電話システム トランクの新規作成 (New Phone System Trunk)] ページで、次に示す電話システム トランクの設定を入力して [保存 (Save)] を選択します。

表 3-18 電話システム トランクの設定

フィールド	設定
発信側電話システム (From Phone System)	トランクの作成対象となる電話システムの表示名を選択します。
受信側電話システム (To Phone System)	トランクの接続先となる既存の電話システムの表示名を選択します。
トランク アクセスコード (Trunk Access Code)	Cisco Unity Connection が既存の電話システムの内線番号にゲートウェイ経由で通話を転送するときにダイヤルする追加ダイヤル番号を入力します。

- ステップ 37** 作成する残りすべての電話システム トランクについて、[ステップ 35](#) と [ステップ 36](#) を繰り返します。
- ステップ 38** [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストで、[テレフォニーの設定の確認 (Check Telephony Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] を選択して電話システム連動の設定を確認します。
- テストに失敗した場合は、[タスクの実行結果 (Task Execution Results)] に 1 つ以上のメッセージがトラブルシューティング手順と共に表示されます。問題を解決した後に、もう一度接続をテストしてください。
- ステップ 39** [タスクの実行結果 (Task Execution Results)] ウィンドウで [閉じる (Close)] を選択します。
-

